平成２９年度　奈良の木利用拡大検討委員会概要

日時：平成 30 年２月８日（木）14:00～16:00

場所：奈良県文化会館　多目的室

１．開会

２．開会挨拶

事務局より挨拶

委員紹介　出席委員：伊藤委員、永田委員、川村委員、北村委員、甲村委員

杉本委員、服部委員、山田委員

３．議事

①委員長職務代理者の指名

伊藤委員を委員長に選任する旨、事務局より説明

委員長職務代理者の指名

②奈良県林業・木材産業振興プランの進捗について

事務局より資料３に沿って説明

③各施策の実施状況について

事務局より資料４に沿って説明

④PR 戦略ワーキンググループでの検討状況について

事務局より資料５、６に沿って説明

PR 戦略ワーキンググループ座長委員より補足説明

⑤県産材利用の制度化の検討状況について

事務局より資料７に沿って説明

委員意見概要

＜委員＞

・世の中の価値観の変化を感じている。既存のマーケットへ木材を売るのではなく、新しいマーケットをつくらなければならない。

・一つのアイディアとして「フェーズフリー」を提案する。フェーズフリーとは日常と非日常の壁を取り去ることであり、防災の分野で使われている言葉である。

・木材をフェーズフリーに利用できないかと考えている。（例：通常は格子として壁になっている木が、非常時は机として使える。）

＜委員＞

・既存のマーケットをねらうことは厳しいと考える。

・ジャンルとジャンルを超えることはできないか。（例：介護用品と家具）

・人口の変化に伴い、人口の中で多くを占める方に係わる商品の数が増えていくのでその分野を意識する。

・今まで通りのマーケットを視野にいれて考えるのではなく、新しいマーケットをつくるためにどうやっていくのかを考えながら動いていったほうが良い。

＜委員＞

・奈良の木の需要は存在すると実感している。

・消費者につながるためには個性が必要。名前だけを知ってもらうだけではなく、ファンになってもらうことが必要であり、さらにファンのコミュニティをＳＮＳで作ることが必要な時代でもある。

・奈良には多くの強みがあるのでそれを生かして、木材だけではなく産業としても考えていきたい。

<委員>

・東京でＰＲ活動などをして、消費者のニーズにあった製造ができていないことがわかってきた。

・かつて５００社あった製材所も現在２００社までになった。

・その２００社の製材所に対して今後についてアンケートを行った。５０％は奈良の木をＰＲして商売を続けていく、２５％は売り先があれば子供に継がせたい、残り２５％は設備の老朽化と時代の変化のためやめるつもりと答えた。

・奈良県の業者は小規模でものを作る力はあるが売る力がない。

・首都圏に売り出していったが、納期と価格の問題で納品できなかったことがあった。

・現在、木材流通加工施設をつくってネットワーク化しようとしている。

<委員>

・奈良県の林業界の弱みはマーケットとメーカーが相互に交流していないという点である。

・インターネットを用いてマーケットとメーカーが相互に交流できる仕組みなどができればありがたい。

<委員>

・内装や消費者に向けては有識者に任せる。

・国産材の構造材を問題視している。国産材のスギの集成材は単価は安いけれど売れていない。ヨーロッパ材は高いが売れている。

・日本は一から勉強して国産材をどう売っていくか考え直す必要がある。

・海外戦略も問題としてあげられる。日本の木を使った製材の輸出はこの１０年間失敗し続けている。

・見本市に出すだけではなく、戦略を練って海外、東南アジアに売りに出す必要があると考えている。

・日本の大手メーカーも国産材の工場を建設したが、国産材を売るマーケットが小さい。

<委員>

・川上側の意見として、様々な補助金に感謝している。

・しかし、補助金が事業者ごとに配分され、一事業者あたりの金額が少なく、事業の効き目がないに等しい現状である。

・市町村によって取り組み方に温度差があるので県から指導してほしい。

・山側からすると。Ａ材が動かないと奈良県の山は動かない。Ｂ材、Ｃ材が動いてもＡ材が動かないと山側は動かない。

・Ａ材を動かす取り組みを今後も進めてほしい。

<委員長　総括>

・奈良の木の利用拡大のためには、奈良の木の価値を認識して高めていく必要がある。

・木の利用について様々な方向から見て、利用の可能性を考えていく必要がある。当然、社会経済のニーズに対応していくことにつながる。

・マーケットとメーカーの間がうまくいかないから、利用拡大につながっていない。我々、この委員会を通してマーケットとメーカーの間になにかインターフェイスをうまくつくれないか。これが今からの課題である。

・奈良の木の利用拡大、マーケットの拡大、外材に対して戦略を考えていかなければならない。

・Ａ材を動かすことも重要な事項である。Ａ材が動いていないという報告があったので考えていかなければならない。Ａ、Ｂ、Ｃ材すべて使っていくが、それぞれの材の配分の仕方も検討課題である

・以上のことをこれから県で検討していただいて、今後の課題としてほしいと思う。

⑥その他

新たな森林管理制度について、事務局より資料８に沿って説明

事務局より今後の奈良の木利用拡大検討委員会の運営について説明

・今年度の委員会開催は今回１回であること。

・来年度は中間報告年度のため、検討委員会は開催予定